

山鹿市宮古島交流事業報告

山鹿市立鹿北中学校

宮古島交流 1 日目

2月5日（水）の給食の時間、ランチルームにて、**1年生宮古島交流出発式**を行いました。1年生代表生徒から交流に向けての決意を発表しました。



積極的に交流することや、様々な違いを見たり感じたりしながら、ふるさと鹿北を見つめ直していきたい、友だちの新たな一面との出会いを楽しみにしたいとの言葉が印象的でした。

明日から2泊3日の宮古島交流。一人一人にとって最高の学びの時間となることを期待しています。

2月6日（木）1年生は今日から**2泊3日の宮古島交流**に出発です。朝6時過ぎ、まだ暗く寒さが厳しい中、市民センター駐車場にて出発式を行ないました。



そして、たくさんの保護者の皆さま、教育委員会の先生、鹿北中の先生方に見送られながら、鹿北を出発しました。



九州自動車道に入り、基山サービスエリアでトイレ休憩をとり、福岡空港へとバスは進んでいきます。外もだいぶ明るくなり、バスの中では、しあわせ運べるようにの練習を行いました。

1回歌うごとに自分たちで反省点を出し合い2回、3回と歌っていきます。その姿に**自治力の高さ、集団の質の高さ**を感じました。



PIC・COLLAGE

福岡空港に無事到着。人が一気に多くなり、活気が感じられます。チケットを受け取り、**搭乗手続き**を行いました。

男子は制服の上を脱ぎ、ポケットの中の物を全部出してチェックを受けました。ちょっとした緊張感を味わいました。6番搭乗口で搭乗のアナウンスを待っています。

もうすぐ雲の上に行きます。みんなワクワクです。

離陸の準備が終わりましたとの機内放送。そして約2分後、背中がシートに押し付けられるような圧を感じる加速とともにあっという間に離陸し市街地が小さくなっていきます。

10分もたたないうちに雲の上に。今まで雲は下から見上げるのが当たり前だったけど、今、雲を眼下に見おろしています。不思議な気持ちです。また、**空の色がこんなにも青いものか**と驚かされます。

機長さんが、今、九州の南の海上に出たことを伝えてくれました。また、「眼下には種子島や屋久島が見えてきます。」と、アナウンスしてくださいました。

飛行機は揺れることなく穏やかなフライトで、空の旅の素晴らしさを一人一人が実感していることと思います。



【昼食 那覇空港にて】

那覇空港に到着し、まず暖かな空気につつまれていることを感じました。朝マイナス4度の鹿北を出て、数時間後には、**春の温かさ**の中にいます。宮古島に行く飛行機への乗り換えまでに時間があるので、空港ロビーで昼食をとりました。

そして13時前、いよいよ宮古島に向かう飛行機の搭乗が始まりました。



【離陸 那覇空港→宮古島空港】

那覇空港は自衛隊との併用です。出発に向けて滑走路を移動中、自衛隊機が窓の外に見えてきました。**沖縄を感じた瞬間**です。

そしていよいよ離陸。あっという間に上昇していきます。また、雲が下に見え、空の深い青色と出会うことができました。



【宮古島との出会い】

高度約 5000mから飛行機は宮古島空港への着陸態勢に入りました。下に見えていた雲が近づき雲の中に入り、外はしばらく真っ白い雲しか見えませんでした。

その雲を抜けてまず視界に飛び込んできたのは、今まで見たこともないきれいな色、**宮古ブルーの海**でした。言葉にできない感動！



【宮古島空港にて】

14時過ぎに宮古島空港に到着。空港では宮古島市教育委員会教育長をはじめ、宮古島の方々が私たちの到着を待っていてくださり、**熱烈に歓迎**してくださいました。

山鹿市との交流を大切にしてくださっていることが伝わってきます。代表生徒がお礼のあいさつ、**宮古島市教育委員会教育長から歓迎の言葉**をいただきました。

その後、みんなで**記念写真**を撮りました。



【宮古南静園ハンセン病歴史資料館訪問】

宮古島に到着し、最初の学びの地である南静園へと向かいました。15時頃に到着。ここではハンセン病の元患者の方々に、差別による苦しみ、差別とたたかってこられた思いを語っていただきました。

正しく知らないことからの差別や偏見が、人の人生をめちゃくちゃにしてきたことへの怒りがこみ上げてきます。

資料館を案内していただき、差別のきびしさを目の当たりにして胸がしめつけられます。

生徒一人一人が、人権の大切さを学び、人権を守るために勇気をもって行動することの大切さを学びました。



【ホテルへ、そして前浜ビーチへ】

16時30分頃、南静園を出発し、ホテルへと向かいました。早めにホテルへ向かったのは、ホテル到着後、ホテルのすぐ前に広がる前浜ビーチに行くためです。荷物を部屋に置いてロビーに集合し、前浜ビーチへ。



木々に覆われた細い道を抜けると砂浜が広がっています。砂浜の砂は今まで感じたことのない粒の細かさです。

粒と言うよりも粉といった方がぴったりな感じです。海の色も、宮古島ブルーです。誰もいないビーチを鹿北中1年生が独り占め。何と贅沢なことでしょうか！





【夕食】

夕食は、ホテル1階ロビーの食事スペースでいただきました。班ごとに「いただきます」をして、楽しく会話をしながらいただきました。食事の時間は生徒も教師もホッとします。



【レクリエーション&今日の振り返り】

夕食後、みんなでジェスチャーゲームなどをして楽しみました。そして、今日の振り返りをしました。

南静園での学びを振り返り、自分が感じたこと、今日の学びをこれからの生活にどのように生かしていくのかなどを見つめ、発表しました。



あっという間の1日。しかし振り返ると、**たくさんの出会い、学び、発見**

がありました。すばらしい1日、宮古島に、そして、宮古島の方々に感謝です。

宮古島交流1日目、鹿北と違う自然や文化、歴史との出会いを、一人一人が心に刻むことができました。





宮古島交流2日目

【朝食バイキング】

朝食はバイキング形式。思い思いに自分の食べたいものをお皿にのせていきます。相変わらずの温かさ。男子生徒は半袖ワイシャツ姿です。

朝食後、ホテルの方から、一人一人「ごちそうさまでした。」「おいしかったです!」「ありがとうございました!」と言ってくれたことに驚くとともに、とてもうれしかったですと、声をかけられました。



【前浜ビーチ再び】

朝食後、予定にはありませんでしたが、生徒から、「もう一度前浜ビーチに行きたいです。」とのリクエスト。そこで、急きょ前浜ビーチへと向かいました。木に覆われた細い道を通り抜けると、そこはもう別世界。聞こえてくるのは波と風の音だけ、ゆったりと時間が流れていきます。こんな贅沢な時間を過ごしている「今」に感謝です。



【東平安名崎公園】

ホテルを出発して今日の最初の訪問地、**東平安名崎公園**へとバスは進んでいきます。

車窓から海が見えてくると、歓声があがります。

約15分ぐらいで東平安名崎公園に到着。

そこには、**ほぼ360度見渡せる絶景**が広がっていました。太平洋と東シナ海がぶつかり白波が上がっています。水平線が丸みを帯びていて、地球が丸いことを実感させられます。

公園の先端には白い灯台がぽつんと建っています。その灯台のらせん階段を、みんなでひたすら登ると、青い海と空、白い雲が迎えてくれました。**人工物が何もないただ自然だけの世界**に圧倒されます。

灯台の上から生徒が手を振ると、一足先に降りてきた生徒が手を振っています。灯台の高さが伝わってきます。

韓国から来られた方と積極的に会話しながら、バスへと向かいました。バスが留まっている広場では、かき氷が売られています。驚きです。

【地下ダム資料館】

今日2番目の訪問地は**地下ダム資料館**。環境教育の一環として選択した訪問地です。地下ダムと聞いてもなかなかイメージできませんでしたが、資料館の方に説明していただき、「あっそうか!」と納得。

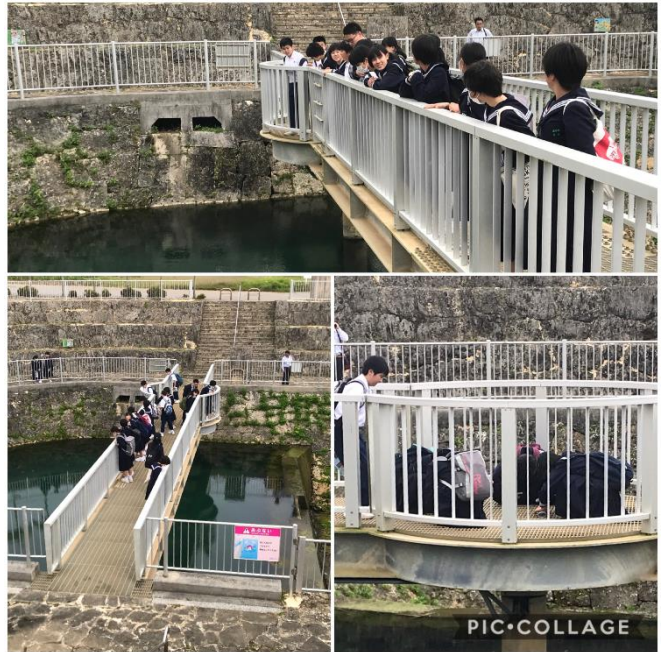
石灰岩が広がる宮古島では、雨水が地下にしみ込んでいきます。だから**川がありません**。独特の石灰岩のおかげでハブも生息できない地になっています。**地下にたまった水を利用して地下ダム**を作っていることなど、丁寧にお話してくださいました。



説明してくださる方の話術と人柄に知らず知らずのうちに引き込まれていきます。「ただ者ではない」オーラが出ています。

あとで聞いてみると、大学の教授の指導も行い、世界各地の専門家の方への説明などもされているとのこと。イギリスや中国での研究生活が長く、この宮古島の自然に魅了されて引っ越してきましたと、笑顔で話してくださいました。

たぶん1日中お話されても話が尽きないくらいの知識と経験を持ち合わせている方ようです。



こんなすごい方との出会いも大切な学びの一つです。

【昼食】

地下ダム資料館を後にして、昼食場所へと移動しました。外はあっという間に青空から雲が広がり暗くなり、雨が降り出しました。ものすごい勢いの雨と風に外に出られるだろうか心配するほどでしたが、バスを降りる頃には少し風雨もおさまり、ホッとしました。

昼食はボリュームがあり沖縄そばまでついていて、もう満腹状態です。ゴーヤを小皿によけている生徒もいました。証拠写真をカシャ！



【伊良部大橋】

いよいよ**伊良部大橋**を渡る時がきました。無料の橋としては日本最長。一番高いところは80mぐらいある独特の形をした橋。

両側にはきれいな海が広がり、一番高いところを通る時はすこしヒヤッとしました。この橋を通る車の時速は遅く、景色を楽しみながら渡っている人が多いのだと思いました。

橋を渡り終えたところでバスは停車。今渡ってきた橋の全景が見えます。あらためて橋の長さの特徴ある形が目飛び込んできます。生徒は橋の下の道を通って反対側に出たりと興味深そうです。

橋をバックに、みんなで記念写真を撮りました。

そして、いよいよ結の橋学園1年生との交流へと向かいます。みんなドキドキです。



【結の橋学園との交流】

伊良部大橋を出発し、さっきの雨で冠水していたところもありましたが、約10分ほどで**結の橋学園に到着**しました。

バスの到着を1年生代表生徒と校長先生が迎えてくださいました。

校長先生から、結の橋学園の概要について説明していただき、生徒からは笑顔と歓迎の言葉をいただきました。

きれいで、とても明るい校舎に入り、交流会が行なわれる体育館へと向かいました。まず圧倒されたのは、バスケットコートが3面とれるというとても**大きな体育館**です。中学校の体育館では見たこともない大きさです。

そんな大きな体育館に元気よく挨拶をしながら鹿北中生は入って行きました。

体育館では、結の橋学園の生徒による歓迎の言葉で**交流会**が始まりました。結の橋学園の生徒から**缶バッチ**を鹿北中生一人一人に贈呈してくださいました。みんな緊張している様子ですが、少しずつ笑顔の輪が広がっていきました。



校長先生から、手作りのプレゼンによる学校紹介をしていただきました。昨年4月に開校した結の橋学園は、**全国制覇を目指すバレーボール**強豪校であることや、**サシバの保護活動**から環境問題を考えられていることなど、小中一貫の9年間の連続した学びの中で児童・生徒が学校生活を送っていることを紹介してくださいました。そして、交流会がスタート。進行は結の橋学園の生徒が行ってくれました。

最初の交流は、名札を配って、その**名札の相手を探して、見つけたら首からかけてあげる**というもの。名札の相手を見つけるためには会話をしなければなりません。自然と交流の輪が広がっていきます。

相手を見つけて名札をかけるとお互い笑顔になります。少しずつ心の距離が縮まっていきます。

続いて、**じゃんけん列車**です。鹿北中でも歓迎会などで行ったことがあります。じゃんけんをしながら、肩に手をかけた長い列ができていきます。

肩にかけられた手から相手の温もりが伝わってきます。触れ合うことで、さらに交流への気持ちが高まっていきます。

3つ目は、**新聞たたみゲーム**。両校の生徒と一緒に幾つかのチームを作って、代表の先生とじゃんけんをして負けたら新聞紙が半分になり、その上に工夫しながら乗ります。

じゃんけんをするたびに、新聞紙が小さくなるチームがあり、体育館に歓声が響きます。笑顔の輪が1つになります。

この交流会には、宮古毎日新聞やテレビ局の方々などの**報道機関も取材**に来られていて、鹿北中生も取材に答えていました。堂々と相手を見て、一生懸命答える姿が微笑ましいです。



ゲームの後、結の橋学園の生徒が、**歓迎の踊り（ミヤークツツの踊り）**を披露してくれました。

1月の遠隔交流でも何人かの生徒が踊ってくれた踊りを今日は、全員で踊ってくれました。鹿北中生もお礼に、**鹿北の茶山唄踊り**を踊りました。

交流会の後半は、鹿北中生の司会で**話し合い活動**を行いました。両校の生徒合同で7つの班を作り、以下の3点について話し合いました。

- 1 これまでの交流の振り返り
- 2 交流を通してどんな自分になりたいか
- 3 今後、どのような交流をしていきたいか

「どんな自分になりたいか」では、人見知りを直したい、自分の意見を積極的に伝えられる人、初めて会った人とも積極的に交流できる人、交流を深めながら何かにチャレンジできる人、みんなをまとめられる人、親しみやすい人、優しく思いやりのある人など、様々な意見が出されました。

交流を通して、みんな自分を成長させたい、コミュニケーション力や発信力を身につけて社会で自立して生きていく力を身につけたい、との思いを持っていることが伝わってきてうれしくなりました。

今後の交流については、今までのように遠隔交流を行う、手紙の送り合い、行事の報告会、特産物や伝統文化を見せ合う、2年生の時に鹿北中生に来てもらい、3年生の時、結の橋学園生が熊本に行き交流するなどの意見が出されました。





話し合い活動の後、鹿北中生が歌い続けている「**しあわせ運べるように**」を披露し、熊本地震からの復興を続けている熊本の思いを届けることができました。

いつもは上級生がリードしてくれますが、今日は1年生だけです。自分たちだけで歌えたことで自信につながったことと思います。



最後にみんなでの写真撮影。みんなホッとした表情をしています。今日が新たな交流のスタートとなったことと思います。



バスの中でドキドキしていた鹿北中生。そして、交流が終わった後の安堵の表情。このドキドキこそが学びであり、交流をしてよかったと思えたことが、これから生きていく上で大切な感覚となります。交流の心地良さを心に刻んだ人は、これからも出会いを大切にできる人に成長していくはずです。

また、あまり積極的になれなかったなあという人も、次はもう少し話してみようとか、ほんの少しチャレンジができるようになっていきます。自分のペースで出会いを成長のチャンスとしてほしいと思います。

約1000km離れた結の橋学園と鹿北中学校。今日の交流を通して心の距離が大きく縮まりました。これから、どんな交流を創っていくのか、両校生徒のアイデアと行動力が楽しみになってきました。

結の橋学園の生徒のみなさん、そして、校長先生をはじめ多くの先生方、このような心温まる交流、楽しく有意義な時間を創っていただき心より感謝申し上げます。

そして、これからも両校の交流がさらに深まりますよう、ご協力お願い申し上げます。

【入町式、民泊お世話になります】

結の橋学園での交流を終えて、車内は充実感に包まれています。そして、さらなる出会いを鹿北中生は経験します。



今日は、**民泊**を通して、宮古島の暮らしを体験させていただきます。4班（女子3班、男子1班）に分かれて、一般の家庭に宿泊させていただき、手伝いや体験活動を通して暮らしや文化、自然を体感させていただきます。



再び、**出会いの緊張感**がこみ上げてきます。この緊張感が、明日はどのように変わっていくのか楽しみです。



入町式後、磯釣りや郷土料理づくりなどを体験させていただきました。初めて釣りを体験した生徒もいて、えさのつけ方から教えていただきました。釣れた時は、とてもうれしそうでした。



午後7時過ぎ、各民泊先を訪問させていただきました。サーターアタダギー作リやバーベキューなど、それぞれの家庭で楽しく過ごしています。

緊張感もとれて、家の方々と自然に関わる姿に頼もしさを感じました。手伝いなども積極的に行っていました。

気を遣いながらも楽しい時間を過ごしているようです。

宮古島交流3日目

宮古毎日新聞朝刊より

今朝の宮古毎日新聞には、昨日行われた結の橋学園との交流の様子が掲載されていました。テレビは明日以降放送される予定とのことです。宮古島の方々に、交流活動が行われたことを知っていただくことは、とても意義深いことだと思います。

新聞読みゲームで互いの交流を深める生徒たち17日 伊良部島小・中体育館

う。微力ながら今後支援していきたい」と語り、新年度の供用開始に期待を込めた。

また「観光が地場産業発展のリーディング産業（地域の経済発展を主導していく中核的な産業）として役

割を担っていく」と強調し、今後も宮古島観光が伸びていく可能性を推察した。

もう一人の講師のOKB 総研戦略事業部長の長瀬一也さんは「金融機関をミカタ（味方）にする金融機関

のミカタ（見方）」と題して講演した。

長瀬さんは、地方銀行業界の状況を説明した上で「これからの金融機関は地域との対話も重要である」と力説した。

新聞読みゲームでは、両校の生徒たちを交えたグループに分かれて床に敷いた新聞紙の上に乗り、代表の教諭とじゃんけんを行った。負けたグループは新聞紙を半分折り畳んでその上に乗り、何度かじゃんけんを繰り返して、新聞紙の面積の大きさを競った。

生徒たちは互いの地域に伝わる踊りを披露するなどして、笑顔で会話を弾ませて親密さを増していた。

島發賢美さんは「鹿北中の生徒たちと協力し合ってゲームをしたことが楽し

テレビ電話で会話したね

伊良部島中と 熊本の鹿北中

ゲームで交流

伊良部島中学校（宮城克典校長）と熊本県山鹿市立鹿北中学校（郡一路校長）の交流会が7日、伊良部島小学校・中学校体育館で開催された。両校はインターネットを通して交流しており、今回、鹿北中の1年生15人が来島し、伊良部島中の1年生27人とゲームをしたり、話し合い活動をした。

鹿北中の生徒を代表して河内瑠璃さんが「テレビ電話で会話をして交流会を楽

しみにしていた。初めての宮古島で緊張しているが、よろしくお願ひします」とあいさつした。

新聞読みゲームでは、両校の生徒たちを交えたグループに分かれて床に敷いた新聞紙の上に乗り、代表の教諭とじゃんけんを行った。負けたグループは新聞紙を半分折り畳んでその上に乗り、何度かじゃんけんを繰り返して、新聞紙の面積の大きさを競った。

【離島式、いよいよお別れです】

午前10時、離島式を行いました。各班の代表生徒がお礼の言葉を伝え、栗川教育委員さんにいただいた来民うちわを贈呈させていただきました。そして民家の方々から挨拶をしていただきました。

「みなさんには、宮古島にあたらしい家族ができました。だから、熊本に戻っても、ここ宮古島からみんなのことを応援している人がいることを忘れないでほしい。そして、来年ぜひ宮古島に来て成長した姿を見せてほしい。」との言葉が胸に迫ってきます。

民泊のお礼に、「しあわせ運べるように」を歌いました。涙を流して聞いてくださいました。

【別れ・涙・感謝・再会の約束】

記念写真を撮ったあと、それぞれの民家の方とのお別れです。この瞬間、生徒の目からは**大粒の涙**があふれて止まりません。民家の方々、民泊をお世話してくださった方々も涙、涙です。

たった1泊の短い出会いと交流。しかし、人と人とのつながりは時間ではないことをあふれ出す涙が物語っています。何でこんなに涙があふれてくるのだろう。人と人との出会いとは不思議なものです。そしてあらためてとてもいいものだ実感しました。

今日の涙は一生の宝物となるはずで
す。





PIC-COLLAGES

【宮古島空港→那覇空港】

宮古島空港でお土産を買って、いよいよ宮古島ともお別れです。満席の飛行機に乗り込み空へと飛び立ちました。機内で食事をすませると、もう飛行機が着陸態勢に入ったとのアナウンス。もうすぐ那覇空港です。

着陸後の機内放送では、キャビンアテンダントの方から、「2泊3日の交流の思い出を大切にしてください。」とのメッセージをいただきました。



そして、さらに機長さんから、「鹿北中学校の生徒のみなさん、結の橋学園との交流はいかがでしたか、宮古島は私もパイロットとしての訓練をした一生の思い出の地です。今でもその時のことを思い出します。皆さんにとっても、今回の交流は一生の思い出となるはずです。今回の体験で学んだことを生かしてこれからも頑張ってください。

そして、出発前、コックピットに向かって手を振ってくれた生徒さんがいました。とてもうれしかったです。タラップを降りて振り返ると、そこからコックピットが見えます。また、手を振ってくれたらうれしいです。」との異例の長文のメッセージを伝えて下さいました。



タラップを降りて振り返ると、そこには、コックピットの窓を開けて、笑顔で手を振ってくださる機長さんの姿がはっきり見えました。

本当にありがとうございます。

【那覇空港→福岡空港】

那覇空港の乗り継ぎロビーにて、搭乗手続きの時間が来るまで思い思いに過ごしています。何となく祭りのあとのような虚無感を感じている生徒もいるみたいです。それだけ、宮古島での2泊3日はすばらしい時間であったということです。



飛行機は那覇空港を定刻より20分ほど遅れて、福岡空港に向けて離陸しました。眼下に見える雲のじゅうたん、吸い込まれるような深い青色の空も当分見納めです。



【解団式 鹿北市民センターにて】

予定より10分ほど遅れて、福岡空港に到着。ちょっとしたハプニングもありましたが、無事バスに乗り込み、一路鹿北へと向かいます。

高速を降りて、一般道に入り、いよいよ小栗峠へと坂をのぼっていきます。2日間見てきたさとうきび畑が広がる平坦な景色とは明らかに違った風景が車窓から見えます。いつもの見慣れた風景が、どこか新鮮に感じられます。

18時00分、予定通り、鹿北市民センターに到着しました。



バスの運転手さんに、みんなでお礼を言って、その後、解団式を行いました。

教育委員会の富田さんにも3日間のお礼を伝え、また、迎えに来てくださった保護者の皆さまにもお礼を言って、鹿北中学校1年、宮古島交流団の解団式を終了しました。

2泊3日の宮古島交流。当初思っていた以上に素晴らしい3日間となりました。特に**結の橋学園の生徒の皆さんとの交流、民泊させていただいた家庭での交流**、鹿北中が大切にしている**「出会いの教育」**の中で、生徒は貴重な体験を重ねることができました。

あれほどドキドキしていた、人との出会い。気を遣いながらも、徐々に心の距離が近づいていく心地よさ、これは体験した人だけにしかわからない感覚です。そして、別れの切なさ、悲しさ。こんなに心が揺れ動いたことはめったにないことです。

だからこそ、この経験を大切にしてほしいと思います。人と人との交流は面倒くさく時にはやっかいなものです。しかし、人との交流の中には、自分を成長させてくれる機会がたくさんあります。今回の3日間でそのことを実感したのではないのでしょうか。

この貴重な体験を、思い出の中にしまい込むはまだ早いです。これから、どのように人と人との関係の中で自分を成長させていくのか、また、1年生集団をどのような集団に成長させていくのかなど、一人一人が見つめ、意見を交わしながら、考えを深めていかなければなりません。

このことなくして、1年後、胸を張って宮古島にはいけないはずです。なぜなら、1年生みんなの成長した姿こそが、お世話になった方々への本当の恩返しとなるからです。

解団式後の「次の一歩」が何より大切です。